

## 平成 30 年7月のブログ記事

「つきたい力はみんなで育てる」（府立枚方なぎさ高等学校パッケージ研修支援Ⅰ）

7月になり、暑さが増す中、パッケージ研修も熱さを帯びてきています。

7月5日(木)、府立枚方なぎさ高等学校にて、第1回のパッケージ研修支援の全体研修会を行いました。

40名を超える教員が集まり、「枚方なぎさ高校の生徒につきたい力」を考え、そのつきたい力は、各教科でどのような力として具体化されるのか、そして、その育成に向けて教科内で共通して取り組めることは何かについて協議しました。

教職経験年数を超えて、様々な意見が交わされ、各教科から具体的な目標、そして目標達成に向けた具体的な取組みが発表されました。

数学科からは「考える力」をつけるために数学を通して「論理的思考力」、「推測・発想する力」を育成し、グループワークで学び合ったり、授業の振り返りを行ったりする取組みができるのではないかと発表が、また英語科からは「コミュニケーション能力」の育成をめざし、英語を通して「表現力」や「他者への関心・思いやり」を育てるために、「スピーチコンテスト」や「体験学習、調べ学習の充実」が取り組めるのではないかと発表がなされました。

生徒につきたい力は決して、一つの教科だけで養われるものではなく、各教科を学ぶ本質的な意義を明らかにすると同時に、教科を超えた視点で見渡し相互に連携を図ってこそ育成されるもので、このことについて改めて理解が深まった様子でした。

また、今回の研修会では、授業規律の徹底など即時的に取り組めることと、思考力・判断力・表現力といった見えにくい学力の育成といった長期的な視点で取り組めることが整理されました。

教員の想いが結集した今、その想いが実現する日はそう遠くないでしょう。

今後は、国語科の研究授業を行い、全教科が授業改善を推進します。

枚方なぎさ高校でも教科を超えた授業の在り方についての検討、組織的な授業改善に向けた大きな動きが起ころうとしています。

大阪府教育センターは全力でこの取組みを支援していきます！



(高等学校教育推進室)

## 平成 30 年 12 月のブログ記事

「生徒に身に付けさせたい力」を考える(府立枚方なぎさ高等学校パッケージ研修支援Ⅰ)

府立枚方なぎさ高等学校の授業改善の取組みです。同校では前回(7/5)の校内研修で各教科における「考える力」とは何かを具体的に定義づけ、その力を育成するための方策が共有されました。

それを踏まえて、11月26日(月)に国語の研究授業を行いました。評論を題材に、主題でもある「他人から見た自分」というテーマについて生徒が本文の文章構成を参考にし、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現するという内容です。生徒たちは慣れないやり方に少し戸惑っていたものの、授業者が示す文章構成の参考例や書くための素材の精選を促す働きかけで徐々に書く内容が整理され、自然と鉛筆が走り始めました。書き終えた後には相互評価を行い、代表者の文章を全体で共有します。そして授業の最後には、各自が自分の文章を推敲しました。よりよい文章にはどのような要素が含まれているのか、生徒自身が見つけだしていく姿が印象的な授業でした。

ビデオ撮影された研究授業の様子は教員全体でも共有され、11月29日(木)に研究協議を行いました。「研究授業における生徒の様子」、「そうした生徒の姿を生み出す授業者の工夫や取組み」について教科混合のグループで協議を行いました。授業の様子を見た教員からは、「あんな短時間で、生徒が文章を書けるとは思わなかった」、「生徒が文章を書くための素材を見出す授業展開の工夫があった」等の声があがりました。そしてこのような生徒の姿は、文章構成についてわかりやすく図示したこと、具体的なキーワードの明示で書く内容が整理されたこと等、生徒が学びを深めたり本時のねらいを実現させたりするために授業者がしっかりと準備し工夫していたことによる、と確認することができました。

今回の国語の研究授業における様々な工夫は、全教科で応用可能な重要な要素が含まれています。研究協議で教員自身が見出したこれらの要素を、個々の教員が自らの授業に合わせて取り入れていけば、枚方なぎさ高校がめざす「考える力の育成」につながっていくのではないのでしょうか。

校内研修は長期的、継続的に行うことでその成果と課題が明確になります。枚方なぎさ高校で、授業改善に向けた大きなうねりが生まれています。

今回ご紹介した枚方なぎさ高校が、組織的な授業改善に向けた一連の取組みを、12月26日(水)大阪府教育センター研究フォーラムで発表します。詳細については、以下のリンクをご覧ください(参加申込みにつきましては、フォーラム事務局までお問い合わせください。)!

<https://e-entry.osaka-c.ed.jp/forum/index-top.asp>



(高等学校教育推進室)

## 令和元年7月のブログ記事

「すべての道は授業に通ず ～学校全体でめざす授業改善～」

(府立枚方なぎさ高等学校パッケージ研修支援Ⅰ)

7月4日(木)に、枚方なぎさ高等学校で1回目の全体研修会を実施しました。同校は前年度から引き続きパッケージ研修支援の取組みを行っています。2年めのスタートとして、校長先生のあいさつの後、前年度の振り返りから研修が始まりました。

前半は教科ごとにグループになって、「教科として生徒につけさせたい力」が身に付いているか、「教科で共通して取り組めること」が実現できているか、について考え、それらを踏まえて今年「教科としてつけさせたい力」とは何か、そのために「教科として取り組めること」は何か、について協議しました。

各グループからは「考える力」「他人を思いやる力」「想像力」といった意見が出されました。また、生徒の成長する姿を樹木に見立てて、模造紙いっぱい描かれた木に、大きく「人間形成」と記したグループもありました。和やかな雰囲気の中、どのグループからも積極的に「生徒につけさせたい力」と「そのために取り組めること」について意見を出し合い、互いの意見について考えを深めました。

後半は、学年ごとに集まって、「学年としてつけさせたい力」「学年として取り組めること」について意見を出し合い、発表しました。学年会など、学年の単位は普段でも集まることが多いと思いますが、およそ30分間、授業の在り方だけに絞って話し合う機会が持てたことは、貴重な時間になったのではないのでしょうか。

校長先生は、はじめの挨拶で「すべての道は授業に通ず」と述べられました。今日の研修で、教科からの視点、そして学年からの視点で授業改善に取り組むための道筋が共有できたと思います。枚方なぎさ高校で学ぶ生徒の皆さんが、樹木のように大きく成長する姿が期待できる研修となりました。

大阪府教育センターは今後も継続的な支援を行っていきます。



(高等学校教育推進室)